

## 投資事業評価調書（新規）

部課室名	農林水産部 農林水産局 漁 港 課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 澄田 泰造 (課長補佐兼計画係長 森 正夫)	内線	4172 (4179)
------	----------------------	---------------------	---------------------------------	----	----------------

事業種目	事業名	事業区間	総事業費	9 億円
漁港漁村整備	広域漁港整備事業	妻鹿漁港地区	内用地補償費	0 億円
所在地		事業採択予定年度	着工予定年度	完成予定年度
姫路市 白浜町		18年度	18年度	21年度
事業目的		事業内容		
港内の静穏度を向上させ、水産物流通拠点の機能強化を図り、水産振興を促進する。また、台風等の荒天時においても漁船の安全な係留を図るとともに、漁業活動の安全性を増加させる。		沖防波堤 L = 120m 東防波堤（改良） L = 290m 南防波堤（改良） L = 80m （事業費内訳；国 50%，県 45%，市 5%）		
評価視点	評価結果の説明			
(1) 必要性	<p>妻鹿漁港は姫路地区の大型消費地に近いことからイカナゴ等船びき網漁業の陸揚流通拠点港となっており、地元漁船の利用に加え家島、坊勢漁協の漁船が盛んに利用している。</p> <p>近年、イカナゴは釘煮の普及から流通形態が変化し特に鮮度が要求されるようになり、できるだけ迅速でかつ頻繁な陸揚げが求められている。しかしながら、現在イカナゴ等の陸揚に使用されている岸壁は大型活魚運搬船の利用を図るべく計画していたことから、船びき網漁船等の小型漁船が利用するには陸揚げ作業時の静穏性が不十分な状態にある。</p> <p>このため、港内の静穏度を向上させる必要があり、港口部に防波堤を新たに整備することとする。このことにより船びき網漁業の操船・陸揚げ時間が短縮し陸揚げ量が増大することとなり、荷捌き地背後での直販店が活性化し、あわせて地元水産品の販売拡大も期待でき、水産振興を促進することが出来る。さらに、平成16年の台風に伴う高潮及び波浪により、係留していた漁船の転覆や陸上の荷捌き施設の破損等甚大な被害が発生したことから、既存の東及び南防波堤の改良（嵩上げ）を行うことにより、台風による漁船等の被災を防止し、安全で、安心な漁業活動が行われる。</p>			
(2) 有効性・効率性	<p>該当施設の整備により陸揚岸壁の静穏性が向上し、操業日数が増えるとともに陸揚作業の効率化と迅速化が図られ、イカナゴをはじめとする漁獲物流通の改善が図られ、また、漁業活動の安全性・効率性が向上することにより漁業者の就業環境の改善が図られる。さらに、当漁港内には大規模な水産加工場や漁協の直販施設等があり、流通にかかる基盤整備が整っていることから播磨灘における陸揚流通加工拠点港として一層の機能向上が図られる。一方、台風等の荒天時においても港内静穏性が確保され、漁船が安全に係留あるいは避難できるようになる。 費用便益費 B/C = 3.42</p>			
(3) 環境適合性	<p>沖防波堤の計画においては、既設防波堤から200mの離隔距離をとることによって、港内の海水循環の鈍化による水質悪化を防止する。</p>			
(4) 優先性	<p>防波堤整備に対する関係漁協（家島、坊勢、姫路市中部、白浜）の要望は強く、また、平成18年3月には姫路市と家島町の合併が予定されており、関係4漁協がこれまで以上に直販施設販売等に協力し合うことが見込まれ、妻鹿地域の活性化が図られることから、当該事業整備の優先性は高い。</p>			